

岳連 ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

(一社)静岡県山岳・スポーツライミング連盟

〒422-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

令和3年9月6日発行

第36号

国体出場決定 成女、少女 第42回東海ブロック大会

第42回東海ブロック大会は、梅雨明けの真夏の空が広がる中、7月17日、18日の両日、浜松市のスポーツライミングジムでボルダリングをスクエアクライミングセンターでリードが、本年度国体開催の三重県を除いた東海三県で国体の代表枠をかけて行われた。

昨年度の国体は、コロナ感染症のため開催が見送られた。今回の大会は、感染症の拡大に伴い、参加者全員が2週間前からの体温測定と体調の記録の提出を参加条件とし、基本的に無観客、開始式、表彰閉会式を中止とした。感染防止対策を行い2年ぶりの開催となった。

近年の東海地区のスポーツクライミングのレベルは非常に高く、チーム数は3チームながら、成年女子2枠、少年男女各1枠をめぐって熱戦が繰り広げられた。

17日のボルダリングでは、最初の少年男子は、愛知が4課題全てを2名とも完登する力をみせ、静岡は鈴木音生君が3完登と健闘するが、全体で3位と厳しいスタートとなった。少年女子は、静岡は中学3年の永嶋さんと鈴木結菜さんペアで、鈴木さんが4完登、永嶋さんが3完登で1位のスタートとなった。成年女子は、全日本クラスの2名を揃えた愛知が実力をみせ、6完登でトップに立ち、静岡の北脇さんが3完登、本多さんが1完登と健闘し、2位と幸先のよいスタートとなった。ボルダリングの課題は、やはりコーディネートショ



ン系の課題が多くみられ、パワーやバランスの中に体幹を駆使する課題が多かった。

18日のリードは、少年男子は真新しいホールドや張りぼてを駆使した、メイン壁中央をほぼ直上するルート(13b、13c)で、静岡の鈴木音生君が安定感のある的確なクライミングで完登(個人順位1位)。続く堀岡君も最大傾斜を超え上部壁に入り3手ほど進めてフォール(個人順位4位)。リードは総合1位となり、ボルダリングとの総合では、惜しくも2位で代表権には届かなかった。



トで長いルート(12d、13a)である。少年女子の鈴木結菜さんが、上部壁に入って数手進めてフォール(個人順位2位)。永嶋さんは終了点手前のホールドを取りにいつてフォール(個人順位1位)で完全優勝で本国体出場を決めた。

成年女子は、愛知の2名が完登し優勝を決める中、リードで北脇さんが個人4位、本多さんが5位につけ、個人順位の相乗で岐阜を上回り2位となり、久々の代表権獲得となった。

リードは、男女とも体の切り返しや大きな動きのムーブが組み込まれたルートとなっていた。

少年女子、成年女子は久々に東海ブロック大会



での代表権となり、成年男子を含めて10月の本国体での活躍に期待したいと思います。なお大会の競技・運営に東海四県を含め多くの方々に協力していただき無事大会を終了できたことに感謝申し上げます。順位は次の通り。(諸戸 明)

【少年男子】

1位 愛知県 2位

静岡県(鈴木音生、堀岡隼人) 3位 岐阜県

【少年女子】

1位 静岡県(永嶋美智華、鈴木結菜) 2位

愛知県 3位 岐阜県

【成年女子】

1位 愛知県 2位

静岡県(北脇順子、本多由梨奈) 3位 岐阜県

山伏で夏山登山教室 山頂でロープワークの講習

第9回の夏山登山教室はコロナ禍を考慮して座学・1回と日帰り登山の「安部奥・山伏」のみとした。今年の参加者は生徒10名だった。

6月9日に座学を『あざれあ』にて行った。内容は「夏山登山の基本装備と使い方」と「読図の基本」だった。

6月20日の山伏はコロナの感染防止を考慮して、現地集合という事にして西日影沢の登山口に集合した。当日の参加者は生徒9名に対して講師4名という贅沢なメンバーとなった。私以外は40代の指導員が3名も参加してくれた事は非常に嬉しく



感じた。



まずは、駐車場にて、いつものように「東海浜松工場山岳部の渡邊さん」指導の準備運動で体をほぐした。その後、初対面の方も居たので自己紹介を行ってから出発した。登山口では水分補給して、あらためてコースの説明をしてから山に入った。要所では、座学で使用するの拡大した地形図で現在位置を確認した。この拡大した地形図は亡き小田先生が夏山登山教室で行った事を参考にしたが、生徒さんには解りやすいと好評だった。

順調に登っていったが、蓬峠手前の最後の水場が崩壊していた。固定ロープを頼りに常連の生徒さんや島田しらびそ山の会

の中堅の指導員が安全に生徒さんをフォローしていた。(ここは、後日に登ったら、巻き道が整備されていた。)

皆さん健脚でほぼコースタイム通りに山伏山頂に到着した。各自で昼食後は、山頂にてロープワー



クを行った。これは、2年前の夏山登山教室の北岳の帰りに生徒さんからの要望がありその宿題だった。フィックスロープを張って、簡易ハーネスを

装着してもらいブルージンクやカラビナを用いた悪所の通過を想定しての訓練を行った。生徒さんは真剣にロープワークを行っていて、良い勉強になったと好評だった。

このロープワークは下山時の水場の崩壊地で早速使ったことになった。フィックスロープを設定して安全に降りる事が出来た。下山はスムーズで、下山後は温泉に寄って汗を流す事が出来た。

コロナ禍でなかなか行事が開催できない現在、何とか生徒さんたちと山に登る事ができ、また若い指導員も参加してくれて有難いと感じた夏の一日だった。

(鈴木 修)

山岳レスキュー講習会(中級) リーダーの役割と搬送技術を学ぶ

令和3年度の山岳レスキュー講習会(中級)が6月12日、静岡市の労政会館で20名の参加者を得て開催された。

前年度までは初級、中級レスキュー講習会、ハイキングリーダー講習会

の3部構成だったが、今年度はロープワークや搬送法を中心とした中級と、救急・救護を中心としたファーストエイドの初級に分けて実施することになった。

今講習会はコースをリー



ダーとメンバー分けで募集したが、20名中、18人がリーダーコースの申込であった。登山経験も豊富なベテランの受講者が多く、リーダーとしての更なる技術習得を目指す姿勢がうかがわれた。

講習内容は先ず「バリエイメンバールーダーの役割」について講義を受けた後、各種結束方法を学ぶ。次にその結束方法



を利用して「悪場での簡易確保システム」「ロープでの懸垂降下」の方法を学習した。

午後は簡易搬送法、支



「補助ロープでのフィックス張り」、「引き上げ方法」の講義を受ける。その後リーダー役の指示のもとに各メンバーがチームを組んで実践した。これら一連のロープワークや搬送法技術を習得して講習を修了した。

最後に各講師からの講評では、リーダーとしての役割を自覚すると共に、操作方法に慣れ積極的に学習した技術を活用して、安全登山に努めて頂きたいとのコメントがあった。

(内海廣治)

静岡高男子優勝 第68回東海高校総体登山大会

6月18日～20日、第68回東海地区高等学校総合体育大会登山大会が三重県亀山市鈴鹿山系で行われた。静岡県からは、男子静岡高校、韮山高校、女子富士高校、浜松日体高校の4チームが出場した。

2日目は山中行動を実施するが、前日からの降雨とともに雷注意報が発令されていたためコースを短縮し鈴鹿峠自然の家



から鈴鹿峠までのピストンとなった。

3日目は前日の荒天が嘘のように晴れ渡った登山日和となった。亀山関支所をスタートし観音山、羽黒山を通過し正法寺山荘口へ。正法寺山荘口では監督と合流しパーテイ行動となった。関宿場保存地区を通過し亀山市関支所がゴールとなる。関宿は東海道五十三次の47



た。ここには江戸時代後期から明治時代にかけて建てられた町家が200棟以上も現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区や日本の道百選に選定されており、大変趣のある街並みである。

男子は静岡高校が、女子は四日市高校が優勝した。その他の静岡県勢の結果は、韮山高校男子3位、富士高校女子2位、浜松日体高校女子4位と大健闘だった。

静岡県高等学校体育連盟登山専門部は昭和31年に結成された。本年度65年目を迎える。主な記念事業を表にまとめさせて頂いた。

高体連登山専門部の年間行事として、大会は、県高校総体一次予選(4月)、県高校総体二次予選(東部・愛鷹山系、中部・竜爪山、西部・湖西連峰)(5月)、

育大会登山大会(開催地・宮崎県)で団体女子の部において県立富士高等学校が全国制覇を果たした。

各校の顧問は山を通じ、「豊かな心を育む」よう熱心な指導をしている。コロナ禍においてもできる限り活動ができるよう努力を続けている。

登山専門部では問題を抱えている。かつ

山岳会紹介

新人大会(10月または11月)である。これらの大会は1泊2日で行われる。生徒対象の講習会は、救助救急法講習会(8月及び2月)、地区リ

ダー講習会、競技力向上講習会(10月または11月)を実施している。顧問対象の講習会は、登山部顧問等安全登山講習会(4月)、指導者養成講習会(9月)、指導者総合訓練(2月)を実施している。

競技登山においては、東海及び全国大会で上位に入賞する優秀な結果を残している。近年では、令和元年度全国高等学校総合体

高体連登山専門部

部長 清水 俊幸(県立富士東高校長)

ては40校近くの学校が加盟していた。しかし、少子化の影響等、様々な要因で現在加盟校は18校である。加盟校は減少しているが部員数がある程度維持できていることは救いである。また、顧問の高齢化も進み、半数近くが五十代である。数年で退職する顧問も多く若い顧問は非常に少ないという厳しい状況である。

(鈴木重幸)

創立記念事業

昭和55年(1980年)	25周年	ネパールヒマラヤのトレッキング
昭和60年(1985年)	30周年	インドヒマラヤ・カングラチャ峰
平成9年(1997年)	40周年	テンシヤン山脈 ハンテングリ峰・ムラモルナヤステナ峰
平成13年(2001年)	45周年	ヨーロッパアルプス マッターホルン・モンブラン
平成18年(2006年)	50周年	積雪期南アルプス3000m峰全山登頂
平成23年(2011年)	55周年	キリマンジャロ遠征
平成28年(2016年)	60周年	ヨーロッパアルプス アイガー・ユングフラウ・メンヒ

【男子】

1位 静岡 2位 四日市(三重) 3位 韮山 4位 西尾(愛知) 5位 桑名工(三重) 6位 豊川(愛知) 7位 飛騨神岡(岐阜)

【女子】

1位 四日市(三重) 2位 富士 3位 旭丘(愛知) 4位 浜松日体 5位 岡崎(愛知) 6位 四日市農芸(三重)

(鈴木重幸)



JMSCA 総会

令和3年度のJMSCA定時総会が6月20日(日)に開催された。コロナ禍の緊急事態宣言中ということでZOOMによるオンライン会議での開催となった。令和2年度の事業報告では、コロナ感染拡大のため多くの事業、競技会、研修会等が中止・延期となった。特に上期はリーグジャパンカップと安全登山指導者研修会のみとなった。

収支決算報告では、IFSC世界選手権八王子大会の赤字については、長期借入金等で対応し完済した。

次期役員の選任では、八木原会長、平山副会長、尾形専務理事等が退任し新たに丸会長、亀山筆頭副会長、小野寺専務理事等が選任された。東海ブロックから選出していた安藤氏(愛知)が退任し、東海ブロックの理事は不在となった。

定款の一部改定では、処分規定には永久追放の規定があるが定款にはなく、整合性を図るため定款を改定した。なお、事

案の重大性によっては以後の入会を認めないことができる、永久追放を記載した。

令和3年度事業計画では、延期となった東京オリンピックの年、JMSCA一丸となってメダル獲得を目指すとした。パリオリンピックへ向けて、ユース世代の発掘・育成・強化を図るとし、クライミング体験会等を全国的に展開し、スポーツクライミング愛好者の底辺拡大を目指すとした。

登山に関しては、山岳

山岳スキー26年冬季五輪決定

7月20日に開催された国際オリンピック委員会(IOC)の総会において、「山岳スキー」が2026年ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピックの追加種目に正式承認された。

「山岳スキー競技」とは、スキーと登山を融合した峻な斜面を登ったり、雪面をスキーで滑ったりして着順を競う競技。

丸 誠一郎 JMSCA会長談
この度の「山岳スキー」

遭難を減らす対策が喫緊の課題であり、「夏山リーダー制度」を全国的に展開して夏山リーダーの養成に努める。衰退傾向にあるアルパインクライミングの振興を図り、海外登山の奨励やウインタークライマーズミート等の支援を行う。

山岳自然保護や登山文化の継承は子供たちに山に親しみ、登山の楽しみ喜びを伝えなくてはならない。少年少女登山教室の更なる発展を検討するとした。(木ノ内高嘉)

冬季五輪追加競技承認については、日本選手・競技関係者としても、05年以来的悲願が叶い、感動的な歴史的瞬間となりました。

国内選手権大会では、まだ150名程度の参加ではあります。しかし、スキーとシールを雪山登山の道具として愛用してきた我々にとつては、これに競技の喜びを加えることにより、ユース世代にとつても雪山愛好者にとつてもスノーマウンテンスポー

第2回理事会

ツの新たな楽しみになることを大いに期待しています。(JMSCAプレスリリースより)

今後、JMSCAは、夏季、冬季の五輪を担当することとなる。

日時 令和3年6月28日(月) 18時30分～20時
会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
出席者 理事18名中16名
監事2名中1名
理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、前川朝夫、堀内修、小林久二彦、望月喜久治、滝田博之、増田浩二、出利葉義次、大石幸男、鈴木雅春、岩堀圭治、内海廣治、難波利行、諸戸明監事 塩澤寿雄
挨拶 木ノ内高嘉会長
理事会は静岡県山岳・スポーツクライミング連盟の意思決定機関であるので、各委員会からの事業計画を審議し承認していく。新型コロナウイルス感染症の影響もいくらか落ち着いてきて感染症対策を十分にした上で事業を進めていただきたいと発言された。

1 報告事項

(1) 指導・遭難対策委員会
内海委員長より説明
・静岡県山岳コーチ1・JMSCA指導委員総会が6月6日(日)実施された。議題は事業報告、役員改選、事業計画などがあつた。また、書類の記入方法などの説明があつた。静岡県の主任検定員は工藤氏だけであるため次に引き継ぐ方が必要である。

・山岳レスキュー講習会(中級編)が6月12日静岡労政会館 会議室で行われ、20名の参加者があつた。

・夏山登山教室が6月9日座学、6月20日山伏でのロープレスキューの実習が行われた。7月31日、8月1日に鳳凰三山山行を実施。参加者は9名である。

(2) 木ノ内会長より
・5月26日に県内山岳四団体の顔合わせ。自然保護や山小屋設置についての相談。

・南アルプス写真展の応募に関して、1人5点まで、県内外から南アルプスを撮影したもの。2事業計画

(1) 指導・遭難対策委員会
内海委員長より説明
・静岡県山岳コーチ1(日本スポーツ協会公認)養成講習会に3名受講申し込みがあつた。

・秋山登山教室を計画中。

(2) 競技委員会
諸戸競技委員長より説明
・国体東海ブロック大会について説明。7月17日はCRSクライミングジムでボルダリング、18日はスクエアでリード競技を実施する。コロナ感染防止対策として、17日の受付は時間差で行う。無観客対応での実施とするが連絡方法は県スポーツ協会と協議して決める。

3 東海ブロック正副会長・理事長会議について
・静岡県が担当となる。例年ブロック大会と併せて実施しているが、コロナの関係で未定。

4 令和4年県岳連カレンダーについて
・220部を作成し販売価格を一六〇〇円とする予定。

5 その他
・代表者、理事の変更などの法人手続きを5月19日に完了した。

(鈴木重幸)